

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	令和 元年11月26日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipkensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouyuu_detail_007_kan=true&JigyosyoCd=2191500061-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関門市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 元年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「アクティビティを重視したケアを実践し、入居者様に生き活きと過ごしていただく」という理念のもと、役割をもって生活して頂けるよう自立支援の取り組みに力を入れています。また楽しく笑顔が溢れるグループホームを目指しています。生活機能の維持向上を目的とした転倒予防体操やセラバンド体操、軽体操などの機能訓練に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所入り口に面した道路の拡張工事にて、事業所敷地からの出入りが行えない状況が続いているため外出などが制限されている。そのため、職員が室内でのレクリエーションやイベントを計画し、入所者と共に楽しんでいる。
事業所の目標が「毎日が素敵な笑顔でありますように」と掲げられ、職員も共に楽しんでいけるように取り組まれており、菜園での薩摩芋作りで収穫後はおやつや食事に食材として提供され、運動会なども行われている。
外出頻度や自治会長の交代などから、地域との繋がりが薄くなっている部分もあるが、家族や友人・知人等の訪問は多くある。民生委員との協力で支え合いマップの作成の中で事業所として行えることを運営推進会議と話し合い、取り組むことになった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「アクティビティを重視したケアを実践し、入居者様に活き活きと過ごしていただく」理念の基、季節感を出した創作活動と空間作りや、庭の畑で栽培した野菜の収穫・献立・調理を共に行い、味わう、五感を生かした活動をしています。	理念を会議等で共有するとともに、入所者と職員が共に楽しめるよう、職員のアイデアを取り入れ実践している。職員は入所者との関わりから得た情報で計画立てに取り組むことを基本にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	入居者様に地域出身の方が多く、ご家族、近隣、ご友人の来訪が多く、訪ね易い雰囲気づくりを心掛けています。	地元の方が多く入所されていることから、地域の知人の来訪や外出時に地域の方と再会しお話しをする機会が多くあり、小学校の慰問もある。自治会との関係を現在構築中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会を毎月開催しています。併設の居宅介護支援事業所と連携して、ご相談内容に応じて在宅介護サービスのご案内を致します。9月からは訪問介護サービス事業所を併設しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様からのご意見を大切に考えて、話しやすい雰囲気作りをしています。地域包括支援センターからご出席があり、認知症ケアへの取り組みをご紹介いただきます。頂いたご意見やアドバイスを職員と共有しています。	民生委員より地域の支え合いマップの作成のお話がある。互いの活動連絡も多くされ、事業所として行えることや役割を検討中とのこと。また、道路工事の報告会にもなり、地域の繋ぎの場にもなっている。	支え合いマップ作成に事業所として行えることを運営推進会議で提案しているよう積極的な取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治体担当者と管理者は電話や訪問にて情報交換を行っています。運営推進会議記録や事故報告などを遅滞なく作成して持参し、状況報告をしています。	運営推進会議に包括支援センターの参加が毎回あり、入所者情報を得られている。また、社協や包括からの研修案内も都度情報を得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中時間帯は玄関を開錠して自由に外へ出られるようにしています。身体拘束委員会を毎月開催して身体拘束をしない介護の実践に向けて、現状把握と活動内容の見直しをします。社内の多サービスを交えた研修に参加して得た情報を参考にした勉強会を行っています。	ミーティングにて身体拘束委員会を設置し、毎回話し合いを重ねている。入所者の事例として、窓の施錠の在り方やスピーチロックになりうる声掛け等から検討し、対応の経過を記録に残すなど、根拠を明確にし適切なケア提供に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で開催される「高齢者・障がい者虐待防止研修会」での情報とマニュアルを活用して定期的に勉強会を行うとともに、毎月のミーティングで「不適切なケア」について話し合い、ケアの検討会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員に向けて勉強会を開催しています。必要に応じて個別の研修を行い、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を用いて、ご説明に十分な時間をとるようにしています。納得の上でお申し込みいただくようにご案内します。介護報酬改定などで重要事項の変更が生ずる場合には家族会又は個別に文章をもってご説明をし、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に管理者又は計画作成担当者が対応できるように配慮をしています。年1回、顧客満足度調査を実施して、忌憚ないご意見をいただけるようにしています。ご意見は速やかに共有して運営に活かしています。	顧客満足度調査にて職員不足や接遇面での課題あり対応検討、実践している。また、面会や運営推進会議に家族が多く参加されていることから、普段から話を聞く機会が多くある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案は何時でも受け、全員のスタッフで、考えています。常に管理者に相談しやすい環境を心掛けています。	ミーティングにて意見の吸上げを行う他、普段から愚痴や思いを聞けるようにしている。業務分担を決めていることから、行事提案など、実現しやすい事柄の意見は実践した例が多くあり、職員のやりがいがいいになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働の把握をし法令遵守だけでなく、職員の健康面にも気を付けながら職場環境の整備に努めています。研修会のパンフレットは事務所に掲示、スタッフに呼びかけています。キャリアアップ・資格を勧めしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や管理者研修が行われ、職員についても研修や勉強会を行い、社外の研修についても随時情報提供をして、参加希望者にはシフトの配慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを利用、勉強会には積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学を入居前にして頂き、雰囲気や他の入居者様の生活の様子を見て、納得して頂いた上、入居して頂くようにしています。同じ目線・笑顔・傾聴を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも事前に見学をして頂き、ご家族様の要望をしっかりと傾聴し、不安や負担の軽減に繋げ、信頼を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過剰な介護にならないよう、入居前のアセスメントを重視し、ご家族様と相談をし、決めさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティ等その方が生きがいを持ち、能力を最大限に発揮できる場を可能な限り提供し、常に入居者様を主体とし、職員は一緒に行いながらお手伝いする立場を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊は積極的に推奨しています。家族会の開催やご家族様にも参加できる行事を考え、行事や日常の写真を「ニチイだより」として送付しています。また、何時でも現状報告・状態説明を直ぐに電話連絡をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を何時でも朝8時30分～午後7時30分迄受け付けています。ご家族様との外出は、ご都合に合わせて、時間を気にせずに出出して頂いています。ご友人など馴染みの方の面会もあります。	知人面会が二日おきにある方や馴染みの美容院や同窓会出席など関係の継続がある。趣味として編み物や畑の管理をしてもらう中で、入所者間の馴染みができ、毎晩が女子会の様に過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調に合わせ、無理の無いように、レク・体操・お手伝いをして頂いています。1階2階の合同レクなどを行いお客様の交流会もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーの情報提供を含め、ご家族様や退去先の担当者様に情報提供を可能な限り行っています。ご家族様から近況報告や相談を受けることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションの中から、本人の思いや希望を引き出したり、ご家族から情報を得て、その情報をサービス担当者会議や日々の申し送りで共有し、できる限り生活に取り入れています。	入所時の家族聞き取りで不足している情報は、日常の聞き取りから介護記録や申し送りから収集し、ミーティングで検討されている。不穏時の対応方法は、入居者の状況などから推測し統一したケアを目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ご本人様と良く話をさせて頂いています。入居後もご本人様、ご家族から話を聞くように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状況把握をさせて頂いています。心身状態、生活の様子、入居者様が話された言葉なども記録に残し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報共有とカンファレンスやミーティング時に話し合いを計画に反映しています。	認知症のセンター方式を活用し、それまでの生活歴のほか、関係性など細かな情報収集から状態把握がされ、プランに反映させている。モニタリングのミーティングで話し合わせ、評価されている。	認知症の人のためのアセスメントシートのセンター方式で情報が多く集められている。健康状態や関係性だけでなく、意向の反映や個別性のあるプラン作成への取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕のシフト交代時に申し送りを行っています。管理日誌・介護記録・連絡帳を活用し情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様対応が無理な時は、自費サービスを提案して利用させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に小学校の交流会があります。近隣への散歩・近くのお店へ一緒におやつの買出し、ご利用者様からの希望を聞いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診・緊急時の往診をお願いしています。	協力医を主治医とする入居者が多いが、家族対応により主治医の継続がされている方もある。緊急時には協力医や訪問看護師の指示にて往診や職員による受診の対応もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り週1回訪問看護師の状況観察をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーや聞き取りで情報提供を行い、職員がお見舞いに行き経過観察を行っています。ソーシャルワーカー、ご家族との連携を取り、早期退院の支援や退院後の支援内容をご家族様、主治医と検討し決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的支援の必要性など将来的に重度化した場合やADL低下によるグループホームとしてのケアでは不十分になった場合、ご家族と入院や他のサービスへの移行などの相談をし、情報提供も行っている。	医療支援が必要になった場合に、看取り介護はホームでは行えないことを入所時に説明し理解を促している。協力医の法人で特養があることもあり、重度化した場合には意向を伺い、他への転居をお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従い、ミーティング時に研修会をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消防訓練・避難誘導をしています。民生委員・町内の方の協力をお願いしています。	年に2回の訓練を実施。運営推進会議と家族会に合わせ行い、家族や包括職員も共に消防署員より避難の方法についての指導を受け、家族にも安全確保について事業所の対応を確認をされた。	地域の避難所や急変対応の場としての役割も考えられる。地域との災害、急変時の連携も視野に入れた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する事、馴れ合いにならない様に、言葉遣いや、排泄・入浴介助は、自尊心を傷つけない配慮をしています。お名前で、呼ばせて頂いています。	コンプライアンステストが年1回実施されることから、研修だけでなく日常のOJTで積み重ねて指導を行っている。事業所目標の「毎日が笑顔～」に沿う様に楽しく過ごす為に、会話や声掛けを大切にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を示すなどして自己決定できるよう質問方法を工夫してコミュニケーションを取るよう心掛けています。ご利用者様からの希望が多くなりました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	不規則な生活にならないように、できるだけ入居者様の体調やペース、生活のリズムに合わせた介護をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が見守りながら本人と洋服選び、声掛けを行っている。夏には浴衣などを着て季節を感じて楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、入居者様と一緒に盛り付けをしています。個々に飲み込みがしっかりされているかなど見守りをしています。	菜園での栽培から収穫までを入所者で行い、その野菜を食事やおやつで提供している。摂取量や好みなどに合わせ、パン食やアレルギー対応、食形態の変更など行い、体調管理にも繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄確認を毎日チェック、介護記録に記入しています。水分が少ないときは、食事・おやつ以外でお茶など水分を出す回収を増やしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア・就寝時には、必ず、入れ歯をつけ置きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サイクルを把握してトイレ誘導をし、できるだけトイレでの排泄ができるように支援しています。	自立者が多く、トイレに行く事を周りに知られることを気にされる方もあり、トイレ誘導の声掛けや場所の配慮に気を付けるなど、ユニット内での羞恥心だけでなく人間関係をも把握し対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材の利用、水分摂取量に気を付けて、体操・歩行練習などの適度な運動を行って、下剤に頼らないような支援を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調などに配慮して、週2～3回入浴回数の確保するようにしています。また本人様の希望が強い時はこだわらず入浴をして頂いています。	1対1での介助であるが、羞恥心を表す方もおられ、タオルで隠すことや声掛けで安心してもらえるよう対応している。一人ずつ湯を入れ替えるため全員が1番風呂になっている。週3回午後浴を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息をされて、無理強いをしないで、また不規則な生活にならないように、入居者様のタイミングで就寝できるように支援しています。入居者様が30分から1時間ほど楽しくおしゃべりをしてから就寝しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の情報を共有し、何の為なのかを把握し、服薬漏れが無いように二重チェックをしています。体調の変化などは提携医に報告して指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中から得意分野などでの役割や楽しみごとを引出し、気分転換できるよう支援しています。ボランティア様を招いて、楽しい時間作りも心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩・ベランダでの日光浴、草むしり、畑の手入れや収穫を楽しんで頂いています。ご家族様との外出・会食の協力を頂いています。	道路工事の関係にて散歩や外出時に車が近くに止めらず、外出も難しい現状であるが、運動会など職員が考えたレクやイベントを行って楽しんでもらっている。また、畑の手入れ、駐車場での日向ぼっこや散歩など外気浴は日常に継続的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳にご家族様からお金を頂き、購入希望が有った時は、ご家族様に確認後ご利用者様と買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はお小遣い帳から購入、電話はご家族様に確認後こちらからかけさせて頂く事も有ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔・整理整頓、清掃を心掛けています。	共有空間の季節感を取り入れた飾りつけを職員中心に考え、入所者と手作りすることも多くある。入所者と共に共有スペースの掃除を行うなど、生活感への対応もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを見たり、会話を楽しまれたり、ゲーム・塗り絵をされて見えます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の思い通りにさせて頂いています。安心して居心地のよい空間を心掛け、危険がないように配慮しています。	布団を押し入れに上下ろしされる方や化粧の継続など、ご本人の入所前の生活動作が継続できるように、居室内の配置や持ち込み家具など、家族と相談しながら行われ、居心地の良い空間に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっています。居室は個々の安全・使いやすさを考え、ご家族様・ご本人とも話し合いながら自立した生活が送れるように整えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	令和 元年11月26日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=2191500061-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 元年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「アクティビティを重視したケアを実践し、入居者様に生き活きと過ごしていただく」という理念のもと、役割をもって生活して頂けるよう自立支援の取り組みに力を入れています。また楽しく笑顔が溢れるグループホームを目指しています。生活機能の維持向上を目的とした転倒予防体操やセラバンド体操、軽体操などの機能訓練に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「アクティビティを重視したケアを実践し、入居者様に生き生きと過ごしていただく」理念の基、季節感を出した創作活動と空間作りや、庭の畑で栽培した野菜の収穫・献立・調理を共に行い、味わう、五感を生かした活動をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	入居者様に地域出身の方が多く、ご家族、近隣、ご友人の来訪が多く、訪ね易い雰囲気づくりを心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会を毎月開催しています。併設の居宅介護支援事業所と連携して、ご相談内容に応じて在宅介護サービスのご案内を致します。9月からは訪問介護サービス事業所を併設しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様からのご意見を大切に考えて、話しやすい雰囲気作りをしています。地域包括支援センターからご出席があり、認知症ケアへの取り組みをご紹介いただきます。頂いたご意見やアドバイスを職員と共有しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治体担当者と管理者は電話や訪問にて情報交換を行っています。運営推進会議記録や事故報告などを遅滞なく作成して持参し、状況報告をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中時間帯は玄関を開錠して自由に外へ出られるようにしています。身体拘束委員会を毎月開催して身体拘束をしない介護の実践に向けて、現状把握と活動内容の見直しをします。社内の多サービスを交えた研修に参加して得た情報を参考にした勉強会を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で開催される「高齢者・障がい者虐待防止研修会」での情報とマニュアルを活用して定期的に勉強会を行うとともに、毎月のミーティングで「不適切なケア」について話し合い、ケアの検討会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員に向けて勉強会を開催しています。必要に応じて個別の研修を行い、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を用いて、ご説明に十分な時間をとるようにしています。納得の上でお申し込みいただくようにご案内します。介護報酬改定などで重要事項の変更が生ずる場合には家族会又は個別に文章をもってご説明をし、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に管理者又は計画作成担当者が対応できるように配慮をしています。年1回、顧客満足度調査を実施して、忌憚ないご意見をいただけるようにしています。ご意見は速やかに共有して運営に活かしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案は何時でも受け、全員のスタッフで、考えています。常に管理者に相談しやすい環境を心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働の把握をし法令遵守だけでなく、職員の健康面にも気を付けながら職場環境の整備に努めています。研修会のパンフレットは事務所に掲示、スタッフに呼びかけています。キャリアアップ・資格を勧めしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や管理者研修が行われ、職員についても研修や勉強会を行い、社外の研修についても随時情報提供をして、参加希望者にはシフトの配慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを利用、勉強会には積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学を入居前にして頂き、雰囲気や他の入居者様の生活の様子を見て、納得して頂いた上、入居して頂くようにしています。同じ目線・笑顔・傾聴を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも事前に見学をして頂き、ご家族様の要望をしっかりと傾聴し、不安や負担の軽減に繋げ、信頼を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過剰な介護にならないよう、入居前のアセスメントを重視し、ご家族様と相談をし、決めさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティ等その方が生きがいを持ち、能力を最大限に発揮できる場を可能な限り提供し、常に入居者様を主体とし、職員は一緒に行いながらお手伝いする立場を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊は積極的に推奨しています。家族会の開催やご家族様にも参加できる行事を考え、行事や日常の写真を「ニチイだより」として送付しています。また、何時でも現状報告・状態説明を直ぐに電話連絡をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を何時でも朝8時30分～午後7時30分迄受け付けています。ご家族様との外出は、ご都合に合わせて、時間を気にせずに出出して頂いています。ご友人など馴染みの方の面会もあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調に合わせ、無理の無いように、レク・体操・お手伝いをして頂いています。1階2階の合同レクなどを行いお客様の交流会もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーの情報提供を含め、ご家族様や退去先の担当者様に情報提供を可能な限り行っています。ご家族様から近況報告や相談を受けることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションの中から、本人の思いや希望を引き出したり、ご家族から情報を得て、その情報をサービス担当者会議や日々の申し送り共有し、できる限り生活に取り入れています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ご本人様と良く話をさせて頂いています。入居後もご本人様、ご家族から話を聞くように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状況把握をさせて頂いています。心身状態、生活の様子、入居者様が話された言葉なども記録に残し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報共有とカンファレンスやミーティング時に話し合いを計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕のシフト交代時に申し送りを行っています。管理日誌・介護記録・連絡帳を活用し情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様対応が無理な時は、自費サービスを提案して利用させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に小学校の交流会があります。近隣への散歩・近くのお店へ一緒におやつを買出し、ご利用者様からの希望を聞いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診・緊急時の往診をお願いしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り週1回訪問看護師の状況観察をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーや聞き取りで情報提供を行い、職員がお見舞いに行き経過観察を行っています。ソーシャルワーカー、ご家族との連携を取り、早期退院の支援や退院後の支援内容をご家族様、主治医と検討し決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的支援の必要性など将来的に重度化した場合やADL低下によるグループホームとしてのケアでは不十分になった場合、ご家族と入院や他のサービスへの移行などの相談をし、情報提供も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従い、ミーティング時に研修会をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消防訓練・避難誘導をしています。民生委員・町内の方の協力をお願いします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する事、馴れ合いにならない様に、言葉遣いや、排泄・入浴介助は、自尊心を傷つけない配慮をしています。お名前で、呼ばせて頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を示すなどして自己決定できるよう質問方法を工夫してコミュニケーションを取るよう心掛けています。ご利用者様からの希望が多くなりました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	不規則な生活にならないように、できるだけ入居者様の体調やペース、生活のリズムに合わせた介護をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が見守りながら本人と洋服選び、声掛けを行っている。夏には浴衣などを着て季節を感じて楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、入居者様と一緒に盛り付けをしています。個々に飲み込みがしっかりされているかなど見守りをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄確認を毎日チェック、介護記録に記入しています。水分が少ないときは、食事・おやつ以外でお茶など水分を出す回収を増やしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア・就寝時には、必ず、入れ歯をつけ置きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サイクルを把握してトイレ誘導をし、できるだけトイレでの排泄ができるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材の利用、水分摂取量に気を付けて、体操・歩行練習などの適度な運動を行って、下剤に頼らないような支援を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調などに配慮して、週2～3回入浴回数の確保するようにしています。また本人様の希望が強い時はこだわらず入浴をして頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息をされて、無理強いをしないで、また不規則な生活にならないように、入居者様のタイミングで就寝できるように支援しています。入居者様が30分から1時間ほど楽しくおしゃべりをしてから就寝しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の情報を共有し、何の為なのかを把握し、服薬漏れが無いように二重チェックをしています。体調の変化などは提携医に報告して指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中から得意分野などでの役割や楽しみごとを引出し、気分転換できるよう支援しています。ボランティア様を招いて、楽しい時間作りも心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩・ベランダでの日光浴、草むしり、畑の手入れや収穫を楽しんで頂いています。ご家族様との外出・会食の協力を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳にご家族様からお金を頂き、購入希望が有った時は、ご家族様に確認後ご利用者様と買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はお小遣い帳から購入、電話はご家族様に確認後こちらからかけさせて頂く事も有ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔・整理整頓、清掃を心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを見たり、会話を楽しまれたり、ゲーム・塗り絵をされて見えます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の思い通りにさせて頂いています。安心して居心地のよい空間を心掛け、危険がないように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっています。居室は個々の安全・使いやすさを考え、ご家族様・ご本人とも話し合いながら自立した生活が送れるように整えています。		